

農 政 課

平成 29 年 度

農 政 課

1 概 況

管内の農業は、標高約 1,200m の八ヶ岳山麓から 760m の諏訪湖周辺に至る地域において営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜では、キャベツとだいこん、レタスが指定野菜に、セルリーとスイートコーンが特定野菜の産地指定を受けている。特にセルリーは全国屈指の産地として発展してきている。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県内の 3 割弱の生産額を占める大産地として発展している。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

諏訪湖周辺地域は、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

（1）耕地面積

耕地面積は 6,142ha で、田は 3,385ha、畑 2,757ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 105a で県平均 103a を上回っている。

市町村名	耕地面積 (ha)	田 (ha)	畑 (ha)	農家一戸当たり耕地面積 (a)
岡谷市	232	80	152	45
諏訪市	642	418	224	65
茅野市	2,450	1,390	1,060	100
下諏訪町	54	27	27	37
富士見町	1,627	913	714	152
原村	1,137	557	580	170
合計	6,142	3,385	2,757	105
対比	97.3	96.7	98.5	—
県	108,000	53,500	54,500	103
対比 (%)	97.1	96.5	97.6	—

注) 資料:農林水産省耕地面積調査 (平成 28 年 7 月 15 日現在)

①対比は平成 22 年 7 月 15 日現在との比較。

②原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

③一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2015 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業就業人口、基幹的農業従事者等

農家戸数は 5,829 戸で前回センサスの 92.7%となっており、うち専業農家は 905 戸で、専業農家率 15.5%は県の 16.4%を下回っている。

販売農家戸数は 2,758 戸、自給的農家戸数は 3,071 戸となっている。

農業就業人口は 4,579 人で前回センサスの 85.8%と減少しているが、販売農家の基幹的農業従事者は 3,984 人で、前回センサスの 91.1%にとどまっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数							農 業 就 業 人 口	基 幹 的 農 業 従 事 者
	総農家数	販売農家				自給的農家	専業農家率		
		専業	兼業		計				
			第1種	第2種					
岡谷市	512	33	3	43	79	433	6.4	151	116
諏訪市	982	120	30	253	403	579	12.2	626	553
茅野市	2,452	375	86	697	1,158	1,294	15.3	1,901	1,599
下諏訪町	146	8	1	11	20	126	5.5	35	33
富士見町	1,070	185	64	349	598	472	17.3	898	819
原村	667	184	81	235	500	167	27.6	968	864
合計	5,829	905	265	1,588	2,758	3,071	15.5	4,579	3,984
対比	92.7	107.6	59.4	84.6	87.2	98.2		85.8	91.1
県	104,812	17,241	6,008	28,536	51,785	53,027	16.4	82,935	73,483
対比	89.3	103.0	71.7	77.2	83.4	96.0		82.7	88.3

注) 資料：2015年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満でかつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家
- ③農業就業人口：1 年間に農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数が多い世帯員
- ④基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、1 年間の普段の主な状態が農業に従事していたもの
- ⑤対比：2010 年農業センサスとの比較

(3) 平成 28 年の気象と農業生産状況

平成 28 年の気象経過は、春先の 2 月頃から気温が高く経過し、一時的に平年をやや下回ったほかは、ほぼ年間を通じて平年を上回る気温で推移した。このため、春は農作物の生育が進んだ。梅雨入りは、平年より 3 日早い 6 月 5 日で、梅雨明けは平年より 7 日遅い 7 月 28 日で梅雨期間はやや長くなった。台風の初発生は 7 月 3 日で過去 2 番目に遅くなったが、8 月から 9 月には日本に上陸した台風が 6 個と平年の 2.6 個に比べ大幅に多かった。

また、9 月からは曇天多雨となり水稲やソバの刈取りに大幅な遅れが見られ、野菜や花きでは病害の多発や生育不良等の影響が見られた。

気象災害としては、4 月 12 日に県内全域で降霜が見られたが、管内の被害はほとんどなかったほか、台風は 8 月中旬から 6 個接近したが、被害はほとんどなかった。

主な農作物の生産状況は、水稲については、収穫期に長雨の影響を受けたものの、南信地区の作況指数は、平年並みの 100 となった。特産のセルリーについては、夏までは生育が良かったが、秋以降は生育不良等により、作柄はやや悪かった前年と同程度となった。

(4) 農業等産出額 (H27)

(単位：ha、千万円、%)

種 類	作付面積	農業等産出額	構成比	備考	
農畜産物	米	2,104	276	18.0	
	麦・大豆・雑穀	404	5	0.3	
	果樹	92	20	1.3	
	野菜	1,705	630	41.1	
	花き	101	386	25.2	
	きのこ	-	27	1.8	
	畜産	-	90	5.9	
	養蚕・その他	-	0	0.0	
	計	4,406	1,434	93.6	
水産業	-	98	6.4		
合計	-	1,532	100.0		

注) 産出額は県農業産出額に基づく地域振興局推計値である。